



SUO-OSHIMA日米こどもサッカー(周防大島町)



【information】 次の日程で日米交流事業が開催されます。

○2020年1月11日(土)、新春日米交流書初め会(和木町立和木小学校)

○2020年2月8日(土)、IWAKUNI日米合同交流コンサート(岩国市民文化会館)

目次

- ◆ 米海兵隊岩国航空基地司令官交代式
- ◆ 日米交流事業「SUO-OSHIMA日米こどもサッカー」開催
- ◆ 安心・安全共同パトロール
- ◆ 日本国内における合衆国軍隊の使用する施設・区域外での合衆国軍用航空機事故に関するガイドラインの改正について
- ◆ 岩国市まちづくり支援事業について
- ◆ 陸上配備型イージス・システム(イージス・アショア)について
- ◆ 宇宙状況監視(SSA:Space Situational Awareness)施設の整備について

- ◆ 江田島市における山林火災に係る災害派遣
- ◆ 令和元年台風19号に係る災害派遣 笑顔と故郷を取り戻すために
- ◆ KC-130の鹿屋基地へのローテーション展開の開始
- ◆ 「周辺財産」の個人、企業等に対する有償使用許可のご案内
- ◆ 第31回防衛セミナー ～新たな防衛計画の大綱～
- ◆ 令和元年度特別優秀工事 大臣官房施設監 顕彰
- ◆ 令和元年度優秀工事等 調達部長 顕彰
- ◆ 令和元年版防衛白書 日本の防衛
- ◆ 職員の独り言

令和元年版防衛白書は、防衛省ホームページ(QRコード)でもご覧頂けます。 ⇒



編集・発行 中国四国防衛局

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30

Tel 082-223-7109



米海兵隊岩国航空基地司令官交代式



ファースト大佐（右）からルイス大佐（左）へ
海兵隊旗が譲渡



新司令官として挨拶するルイス大佐

令和元年8月22日、米海兵隊岩国航空基地において、基地司令官の交代式が行われ、約200人の隊員、約400人の家族や来賓が見守るなか、平成28年7月から司令官を務めたリチャード・ファースト大佐からフレデリック・ルイス大佐に指揮権の象徴である海兵隊旗が手渡され、基地の指揮権が譲渡されました。

式典では、太平洋地域の海兵隊基地を統括する米海兵隊太平洋基地司令官のウィリアム・バワーズ准将が「日本のパートナーなどに心を配り、スムーズに物事を進め、地域交流活動を通じて岩国航空基地が地元の中に溶け込むよう努力してきた」とファースト大佐の功績をたたえ、離任するファースト大佐は「岩国での日々は私の人生の中でも大きな位置を占める。海兵隊、海軍、軍属、基地従業員、自衛隊、自治体のみなさんのおかげで目標に一丸となって向かうことができた。『グレートチーム』だったと言いたい。」と述べ、関係者に感謝の気持ちを伝えられました。

続いて新司令官に就任したルイス大佐は「かつて岩国に住んだことがある私にとっては故郷に帰ってきたかのようなです。基地では米軍再編の大型プロジェクトを終え、西太平洋地区で最も重要な基地の中の一つとなり、この基地の指揮を担うことを大変光栄に思っています」と着任の抱負を述べられました。（写真は米海兵隊より提供）

なお、交代式に先立つ8月9日、中国四国防衛局は、3年超に及び司令官としての任期を終えて離任するファースト大佐に森田局長から感謝状と記念品を贈呈しました。

これは、ファースト大佐が防衛省の業務や立場を理解し、岩国市と「愛宕山地区運動施設」の共同使用に向けた速やかな現地協定の締結に尽力したこと、地元の行政担当者らを招き、研修などを通じて理解を深めてもらう「サウンド・オブ・フリーダム」を開催し、積極的に基地周辺住民の方々と交流を図り、相互理解の深化に尽力したことなどに対する謝意を示したものです。



←「スポーツ交流（岩国）」
のドッジボールに飛び入り
参加したファースト大佐



「安心安全共同パトロール
（岩国市）」に参加した
ファースト大佐 →



「書き初め会（和木町）」
に参加したファースト大佐



日米交流事業 「SUO-OSHIMA日米こどもサッカー」 開催

令和元年10月20日、山口県周防大島町(周防大島町陸上競技場)において、中国四国防衛局主催による日米交流事業「SUO-OSHIMA日米こどもサッカー」を開催しました。

当日は、米海兵隊岩国航空基地副司令のエリック中佐、周防大島町の椎木町長をお迎えし、周防大島町内のサッカースポーツ少年団の子供たち32名と米軍岩国基地内のユースサッカーチームの子供たち26名が参加しました。参加者は5つの日米混合チームに別れ、午前中は、遊びを取り入れた練習を行い、午後からは、5チームによるリーグ戦を行い、日米の子供達は連係プレーによるシュートを放つなど熱戦を繰り広げ、コミュニケーションを図っていました。

周防大島町における日米交流事業「SUO-OSHIMA日米こどもサッカー」は今回で6回目を数えます。中国四国防衛局では、今後も米海兵隊岩国航空基地の周辺地域の方々と米軍人・軍属及びその家族との相互理解を図ることを目的として引き続き日米交流事業を実施してまいります。





川下地区のパトロール



麻里布地区のパトロール



令和元年7月12日、岩国航空基地周辺において安心・安全共同パトロールが行われました。

当該パトロールは、市民と行政が共同して防犯活動を進めるものです。

当日は、福田岩国市長をはじめ、森田中国四国防衛局長、飯田山口県岩国県民局長及びファースト米海兵隊岩国航空基地司令官(当時)並びに川下地区及び麻里布地区の防犯パトロール隊の皆さんが参加しました。



日本国内における合衆国軍隊の使用する施設・区域外での合衆国軍用航空機事故に関するガイドラインの改正について

令和元年7月25日、「日本国内における合衆国軍隊の使用する施設・区域外での合衆国軍用航空機事故に関するガイドライン(平成17年(2005年)4月1日合意)」の改正について日米間で合意しました。

本改正は、日本国内の米軍施設・区域外における米軍機による事故が発生した場合に、日米両政府がとる政策及び手続を一層改善するものであり、これにより、日米両政府は今後の米軍機の事故に、より効果的、迅速かつ的確に対応することが可能となります。

主な改正点は、以下の4点です。

- 内周規制線内(制限区域内)への立入りは、迅速かつ早期に行われ、危険物質の観測を含む事故現場における影響の軽減、航空機事故調査、又は請求調査に関連した日米両政府責任者が優先的に行う。
- 米軍から日本当局に対して、有害物質に関わる情報を事故後迅速に提供。
- 残骸の除去に当たって、日本側の財産に重大な影響を与える可能性がある場合、米軍は、地方防衛局を通じて土地所有者と調整を行う。
- 日米の当局又は地元当局が環境調査を行った際には、その結果を日米合同委員会の枠組みで共有する。



岩国市まちづくり支援事業について

事業の概要

岩国飛行場は、岩国市臨海部のほぼ中央にあたる錦川河口の三角州にあり、平野部の少ない同市において広大な面積を占めています。また、平成29年度には厚木飛行場から空母艦載機が移駐しました。防衛省では、住民の負担を軽減するため、防衛施設からの障害に対する施策を行ってきているところですが、これに加え、防衛施設の存在に対する住民の理解を深め、地方公共団体が行う防衛施設の存在を前提としたまちづくりを支援することで、防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策を行っています。

岩国市は、本施策により、岩国市まちづくり事業を平成23年度から実施しており、同事業では、平成27年度に愛宕町に完成した「いわくに消防防災センター」において、岩国航空基地関係者から災害における防災講習、基地内消防隊等との情報交換を行うことで、防災知識の普及の促進を図っています。

また、令和2年度に完成予定の多目的広場は、災害時における活動拠点及び避難施設となり、住民に対する安心安全を確保し、災害に強いまちづくりに寄与するものと期待されています。

事業の内容

『いわくに消防防災センター』



庁舎全景



消防本部



庁舎1階の防災学習館内にある災害体験スペース

『多目的広場』



●通常時(公園として利用)



●災害時(避難所の開設、物資集積所として利用)

※写真及び鳥瞰図については、岩国市より提供



陸上配備型イージス・システム(イージス・アショア)について

令和元年8月28日、森田中国四国防衛局長が山口県庁、萩市役所、阿武町役場を訪れ、山口県副知事、萩市長、阿武町長に対し、陸上配備型イージス・システム(イージス・アショア)に係る再説明に向けた今後の準備作業等について説明しました。

森田局長から、むつみ演習場の北西側に所在する「西台」の標高をより精密に把握するため、現地で外部委託による航空測量を実施するとともに、有識者の助言も得ながら、これまでの説明内容の確認と見直しを行い、正確で分かりやすい説明を心掛けてまいりたい旨説明し、これに対して、山口県副知事からは、「地元において不安、あるいは懸念があるので、今回の委託調査をしっかりとし、丁寧な説明をして頂きたい」等のご発言がありました。

西台の標高に係る委託調査

目的

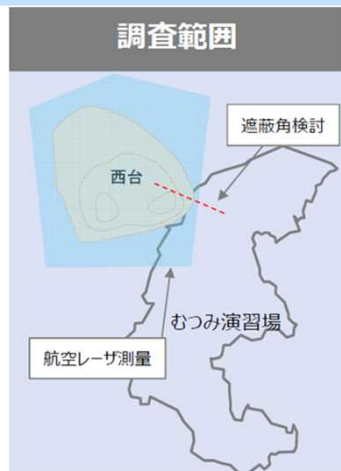
西台がレーダーの遮蔽になり得るところ、西台一帯において現地測量を実施することにより、**正確な標高を把握**するもの。測量により得られた情報を踏まえ、西台の遮蔽角を算出し、レーダーの運用において、メインビームが地表に当たらないことを客観的に示す資とする。

内容

- ✓ 西台一帯において**航空レーザ測量**を実施し、西台の中で最も高い標高値となる場所を特定
- ✓ レーダーと西台の間の**遮蔽角を算出**

期間

約2か月(契約手続きを含む)



宇宙状況監視(SSA:Space Situational Awareness)施設の整備について

近年、宇宙空間の利用が進むにつれ、人工衛星と宇宙ゴミ(スペースデブリ)の衝突などの危険性がより一層高まっています。このような状況に対し、宇宙を飛行する物体の軌道等を把握し、衝突予測情報を衛星運用者に提供することで危険回避をサポートする活動のことを宇宙状況監視(SSA:Space Situational Awareness)といいます。

平成28年4月に閣議決定された宇宙基本計画では、防衛省やJAXA等が、SSAの運用体制を平成30年代前半までに構築することとされ、山陽小野田市に所在する航空自衛隊防府北基地レーダー地区(仮称)においては、SSAに必要な施設(レーダー局舎等)を整備することとしています。

令和元年8月28日、山陽小野田市の埴生公民館において、SSAの整備に係る工事の説明会を開催し、翌9月から工事に着手しました。この説明会には地元の皆様等、約40名に参加いただき、様々なご意見やご要望などをいただいたところであり、防衛省としては、引き続き地元の皆様への丁寧な説明に努めてまいります。

埴生公民館で行われた住民説明会



防府北基地レーダー地区(仮称)

アンテナ設置場所造成工事場所



正門仮設ゲート設置状況

正門



江田島市における山林火災に係る災害派遣

令和元年9月12日に広島県江田島市大須において発生した山林火災は、約4.5haが焼失しましたが、翌13日12時45分鎮圧が確認され延焼のおそれなくなりました。

この間、12日05時30分、陸上自衛隊第13旅団長に対して広島県知事から山林火災の消火活動に係る災害派遣要請があり、中部方面ヘリコプター隊第3飛行隊CH-47(美保)1機が空中消火活動(散水量:205トン、散水回数:41回)、第13飛行隊UH-1(防府)1機が上空で指揮統制など、地上では第46普通科連隊(海田市)が情報収集などを行い、鎮圧を確認後、広島県より撤収要請を受け、順次撤収しました。



CH-47(美保)による消火活動



陸上自衛隊第46普通科連隊と
広島消防の共同作業状況



令和元年台風19号に係る災害派遣

笑顔と故郷を取り戻すために

令和元年10月12日に伊豆半島に上陸した台風19号は東日本地域を縦断し、甚大な被害を残しました。

被災各都県知事(宮城県ほか7都県知事)からの災害派遣要請に基づき、自衛隊は災害派遣を実施、翌13日には熊本地震以来となる統合任務部隊が編成されました。中国四国地方所在部隊も被災地に派遣され、救援活動を行いました。

海上自衛隊は、第1輸送隊 輸送艦「くにさき」(呉)がいわき市小名浜港において給水・入浴支援、呉地方隊の生活支援部隊がいわき市仁井田運動場において入浴支援、第111航空隊(岩国)MCH-101掃海・輸送ヘリが、第4護衛隊 護衛艦「かが」(呉)等の艦上を拠点として、人命捜索及び物資輸送支援をそれぞれ実施しました。

(陸上・航空各自衛隊の活動は、次号で紹介予定。)



入浴支援準備を行う海上自衛隊員



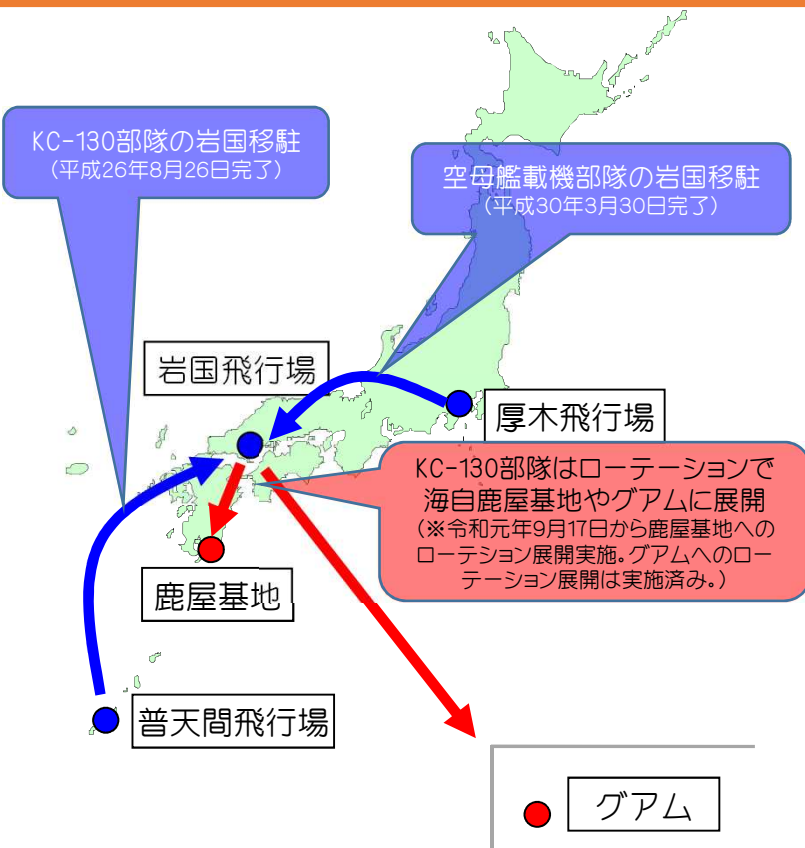
輸送拠点として活躍する「護衛艦かが」



「護衛艦いずも」艦上で物資輸送準備



KC-130の鹿屋基地へのローテーション展開の開始



令和元年9月17日、空中給油機KC-130の鹿屋基地へのローテーション展開が初めて実施されました。

これは、平成18年5月の「再編の実施のための日米ロードマップ」に基づき、岩国飛行場へのKC-130部隊及び空母艦載機部隊の移駐に伴う運用の増大による影響を緩和するとの観点から実施するものであり、鹿屋基地では、離着陸訓練、地上給油訓練、荷下訓練が実施されます。



「周辺財産」の個人、企業等に対する有償使用許可のご案内

岩国飛行場及び美保飛行場周辺には、いわゆる「周辺財産」（移転補償跡地）と呼ばれる国有地があります。この「周辺財産」は、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第5条第2項等に基づく移転措置事業（航空機騒音に起因する障害が著しい区域内に所在する住居等の所有者からの申し出により移転補償等を実施する事業）により取得し、緩衝地帯として管理・保有している、防衛省所管の行政財産です。

これまで、地方公共団体等が公共用の施設として使用を希望する場合に限り、当該財産の用途又は目的を妨げない範囲で、使用許可を行ってきました。

この度、中国四国防衛局では、土地の更なる有効活用を図る観点から、新たに個人、企業等に対しても、一定の条件下、有償での使用許可を行うこととしました。

主な留意点は、以下のとおりです。

- 居住の目的では使用できません。
- 原状回復が容易な使用に限ります。（プレハブ・舗装・簡易な工作物等の設置は可能ですが、堅固な建物や構築物の設置はできません。）
- 使用の方法としては、駐車場、家庭菜園、物置等の設置場所、資材置き場等が考えられます。
- 使用者の負担により、除草等の適切な管理をしていただきます。
- 公平性・透明性を確保するため、公募を行います。
- 使用期間は、原則として1年度です。
- 国側において使用物件の利用需要が発生しない場合に限り、使用許可の開始年度から5年を限度に更新が可能です。（5年を超える使用要望がある場合、再度の公募を行います。）

問い合わせ先 中国四国防衛局 企画部 施設管理課（緑化対策担当）

電話 082-223-7166 当局HP（QRコード）でも詳細を掲載中です。⇒





第31回防衛セミナー～新たな防衛計画の大綱～

中国四国防衛局は、令和元年9月26日(木)に愛媛県男女共同参画センター多目的ホールにおいて、第31回防衛セミナーを開催しました。

主催者を代表して森田中国四国防衛局長からの挨拶の後、防衛省防衛政策局防衛政策課の有田純防衛政策企画官から「新たな「防衛計画の大綱」・「中期防衛力整備計画」」をテーマに講演を行い、我が国安全保障環境は「前大綱(25大綱)の策定時に想定したよりも格段に速いスピードで厳しさを増している」と指摘し、昨年12月に5年ぶりに策定された新たな防衛計画の大綱等について、わかりやすく解説しました。

続いて、防衛省防衛研究所政策研究部防衛政策研究室の小野圭司室長が「人工知能(AI)の発展と防衛力の将来像」をテーマに講演を行い、人工知能の開発は、ビッグデータを使って人間の直感力を模倣する第3次ブームにあるとして、AIの可能性と脅威、軍事組織への影響について話した後、参加者との活発な質疑応答が行われました。

中国四国防衛局では、今後も防衛政策や自衛隊の活動を広く国民に理解していただくため、管内各地で防衛セミナーを開催致しますので、多くの方々の参加をお待ちしております。



主催者挨拶
森田 中国四国防衛局長



令和元年度特別優秀工事 大臣官房施設監顕彰

防衛省においては、地方防衛局等が発注する建設工事及び業務に関し、施工状況、実施状況等が特に優れており、他の模範とするに相応しい建設工事及び業務について、入札参加者の受注意欲を高め、建設工事及び業務目的物の品質確保等を図るため、大臣官房施設監が顕彰することとしております。

本年度、当局では見島(27)局舎等新設建築追加工事及び見島(27)局舎等新設建築追加工事(その2)の2件の工事を受注・施工した松尾建設(株)山口支店が表彰されました。





令和元年度優秀工事等顕彰者記念撮影

令和元年7月2日、広島市中区の広島合同庁舎で令和元年度優秀工事等顕彰状贈呈式を開催しました。本年度の顕彰者は優秀工事等18社で、平川貢調達部長からそれぞれに顕彰状を贈呈しました。本贈呈式は、平成30年度に完成した工事・業務の中から、工事・業務成績評定や現場における創意工夫並びに施工努力等を総合的に評価し、他の模範とするにふさわしい工事・業務を選び、その受注者等を顕彰するというもので、今回で10回目を数えます。

優秀工事

美保(29)局舎改修等電気その他工事 浅海電気株式会社	岩国飛行場(H28)憲兵隊事務所新設等建築工事 勝井建設株式会社	岩国飛行場(H28)警衛所新設機械工事 株式会社桐田商会
岩国飛行場(H28)上級下士官宿舎新設機械工事 三建設備工業株式会社	美保(28)駐機場航空灯火整備工事 サンベ電気株式会社	岩国飛行場(H28)給水整備工事 山陽建設工業株式会社
見島(27)局舎等新設機械工事 見島(27)局舎等新設機械追加工事(その2) 新日本空調株式会社	見島(27)局舎等新設電気その他追加工事 見島(27)局舎等新設電気その他追加工事(その3) 株式会社中電工	呉(24)吉浦棧橋新設土木その他追加工事(その2) 東洋建設株式会社
岩国飛行場(H29)道路整備工事 株式会社ナルキ	岩国飛行場(28)工場(0407)新設等建築工事 日立建設株式会社	岩国飛行場(H28)警衛所新設土木工事 日立建設株式会社
岩国飛行場(H28)給水整備工事 株式会社藤川興業所	岩国飛行場(H28)上級下士官宿舎等新設通信工事 株式会社ミライト	岩国飛行場(H29)道路整備工事 コタカ工業株式会社

優秀業務

岩国試験所(29)試験棟等新設建築設計 株式会社車田建築設計事務所	山口(30)むつみ測量調査 株式会社パスコ
岩国試験所(29)試験棟等新設設備設計 株式会社婦木建築設備事務所	岩国試験所(29)試験棟等新設建築設計 株式会社山下設計

※記載の順番は50音順です。



職員の独り言

私は、平成30年12月1日に新設された調達部事業監理課に所属しており、プロジェクトマネジメント業務、検査業務、ライフサイクルマネジメント業務に従事しています。

特に検査業務については、事業監理課に配属されるまで検査を受ける立場でしたが、検査を行う課に配属されたことにより、これまで気づけなかったことに気づくことができる機会が増え、自分の意識や考え方を成長させることができ、あらためて、自分の業務にやりがいを感じています。

休日には、趣味のバスケットを行っています。日頃のストレスを発散して、心身共に健康になることにより、高い質の仕事を効率よく行うための英気を養っています。

これからも、やりがいや充実感を感じながら働くと共に、子育てや趣味等の個人の時間を持てる健康で豊かな生活ができるよう励んでいきます。



かわはら だいすけ
(事業監理課 川原 大介)

今年の4月で、広島勤務4年目となりました。また、私自身広島出身ということもあり、慣れ親しんだ土地で職務に励んでいます。

私は、平成30年12月に発足した調達部事業監理課に所属しており、主にプロジェクトマネジメント業務、ライフサイクルマネジメント(LCM)業務、検査業務などを行っており、LCM業務に関しては監督官が提出する電子成果品のチェック、検査業務に関しては検査予定表を確認し、検査が円滑に進むよう日程等の調整業務を行っています。

休日は、カープの観戦によく行っています。現地で観戦すると臨場感と迫力が全然違うので楽しさも倍増です。また、局内にはカープファンがたくさんいるので、カープを通して交流を深めることが出来るようしっかり応援しようと思います。



あべ たかふみ
(事業監理課 安部 崇史)

私は、平成29年度入省時から調達部建築課に配属され、防衛施設の設計・工事監督業務に携わり、今年で3年目を迎えます。

建築物を介して防衛の仕事に携わり、日々上司や先輩のもとで勉強しています。ただ単に建築施工だけでなく、部隊ユーザーや施工業者、駐屯地・基地周辺の協力をいただいている地域住民の方との調整といった、専門知識だけでなく、多岐に渡る知識を培うことができる職場であると実感します。

また、広島生まれ・広島育ち・広島採用なのでプロ野球のシーズンはカープ観戦(最近はチケットが売切れ状態ですが...)を楽しんでいます。来年はリーグ優勝。そして日本一に...!

日々勉強のなか、様々な知識を身につけ、大々的にカープを応援しながら業務に取り組みたいと思います。



こんどう やよい
(建築課 近藤 弥生)